

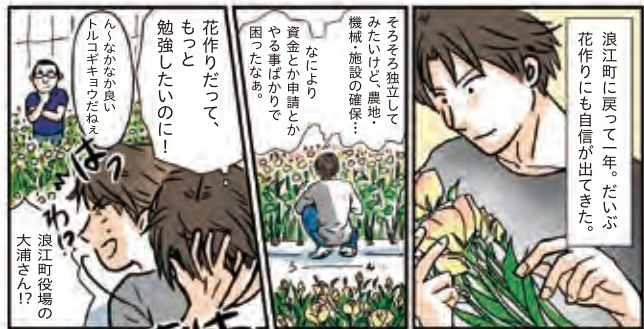


なみえ花通信

<https://www.namie-flower.jp>

～なみえに花を咲かせましょう～

- ・震災後初めて、10年ぶりの田植えが行われました
- ・新規営農、新品目など新しいチャレンジが始まります



浪江フラワープロジェクトの最新情報をホームページで!

<https://www.namie-flower.jp>

浪江町 農林水産課

〒979-1592 福島県双葉郡浪江町大字幾世橋字六反田7-2

TEL: 0240-34-0245

<https://www.town.namie.fukushima.jp>



Facebookもチェック



※浪江町では新規就農者・新規参入農業法人向けパンフレットを用意しています。お気軽にご請求ください。

なみえの春より

今年の浪江の4月は、肌寒い日もありましたが、植物たちが元気に芽吹き始めるとともに、いよいよ、本格的に農作業のシーズンがスタート。水稲の実証栽培を開始してから7年目を迎える今年、新たに、南棚塩、西台、田尻での水稲の作付けも始まり、およそ3倍の84haまで増えました。なかでも、津波で大きな被害を受けた南棚塩では、昨年に災害復旧が完了したばかりですが、農地所有者の合意のもと、株式会社福島舞台ファームにより、24haもの作付けが始まりました。震災前は、町内の水田面積約1,900haのうち約1,250haが作付けされていたのですが、町内のいたるところでかつての田園風景が復活しています。皆さんは、お米の花、見たことありますか？ 8月上旬あたりから、晴天の午前10時から2時間程度、とても小さいかわいい白い花が咲きます。ぜひ浪江町に来てご覧ください。

「なみえ花通信」では、これからも明るいニュースをお届けできるよう、みなさまと共に未来へ歩んでいきます。



3月定植のトルコギキョウ。初出荷は7月予定



初出荷までJinで仕事をさせていただきながら勉強中



2連3棟、計6棟の真新しいハウス。行政の補助・支援制度を活用して建てられました



「宮城の被災地で田植えを再開させた実績もあるので、ノウハウを生かしながら浪江町に還元していきたい」と語る株式会社「福島舞台ファーム」志子田勇司代表。



トルコギキョウで故郷を 元気に！新規営農スタート

今年3月、浪江町に真新しい2連3棟の花の栽培ハウスがお目見えしました。営農者は浪江町出身の川村賢司さん。震災後、町外でオフィス事務職をしてきましたが、浪江町の自然で育ったこともあり、「好きな土いじりができ、一生できる仕事」を考え、1年前に浪江町に戻り、特定非営利活動法人 Jinでトルコギキョウ作りを学んできました。「花作りはまだまだ分からない事ばかり」と言う川村賢司さんですが、「上手く行かない事も楽しいし、だからこそ可能性も感じています」との事。新規営農に関しては「浪江町役場の方々が想像以上にバックアップをしてくれたので、全く不安を感じませんでした。補助・支援制度含め、分かりやすく対応してくれたので、僕自身は花作りの勉強に集中させてもらえました。今の目標は3月に定植したトルコギキョウが7月出荷予定なので、まずは目の前の事で手一杯ですね」と笑顔で語っていただきました。若い営農者の新しいチャレンジ。なみえ花通信では今後ともご報告させていただきます。



立野地区 菜の花&ミツバチプロジェクト、スタート



トルコギキョウの栽培ハウスで、二十日大根やホウレンソウなどの作物を栽培



トウモロコシなど夏野菜にもチャレンジ

発育状況を確認する Jin 川村博さん

浪江町の立野地区はとても広く、上中下と3つの地区に分かれています。今回、養蜂が始まったのは立野上地区。西側は帰還困難区域の室原地区、広い山林も抱えており、農地も畑が多く、畜産を営んでいる方もいらっしゃいました。地区の農家の方々は、今後、どのような営農をしていけばよいか、悩み、話し合いを重ねてきました。

そこで出たのは「菜の花&ミツバチプロジェクト」。8人の構成員、初年度から延べ45haもの農地に、菜の花、蓮華、蕎麦、などを栽培し、30群の蜜蜂が花の蜜を集めます。令和5年までには、55ha、90群まで拡大する計画を立てています。行政の補助事業だけで全ての資機材をそろえることはできないため、出資や借入により準備を整えました。蜂蜜としての活用のほか、菜の花は菜種として搾油をする事業者へ、蕎麦はJAへ販売します。蓮華は花が終わった後、農地の地力を高めるためにトラクターですき込み、向日葵の種をまく計画もあるようです。四季折々の花が咲く立野上地区に、皆さまも訪れてみませんか。



ミツバチたちの家であり、養蜂にかかせない巣箱も整備



コロナウィルスの影響下、 花農家の新たな取り組みも

コロナウィルスの影響で、イベントの中止や延期が各地で相次ぎ、全国的に花の需要が激減しています。浪江町でも一部の農家では、花き類の価格低迷対策として、花の作付けを一部お休みし、一時的に野菜の栽培に転換しています。通年で花きが栽培されていたハウスには、葉物や二十日大根などの回転の速い作物や、トウモロコシ、トマト、オクラなどの夏野菜が作付けされ、順調に生育しています。既に出荷し収益を上げており、常に需要のある野菜を栽培することで、コロナ禍の苦境に対応しています。また、冬に定植したトルコギキョウは市場への出荷は控えましたが、品質が良いものであったため、直売所と相対での取引で値崩れすることなく、出荷することができました。引き続き、夏の出荷に向けて高品質なトルコギキョウの栽培に取り組みます。震災、昨年台風19号、豪雨被害など、これまでも苦境を乗り越えてきた浪江の農家の皆さん。浪江のお花を皆さまにお届けできるよう、常に前を向いています。



浪江町に新たに広大な菜の花畑が誕生しました